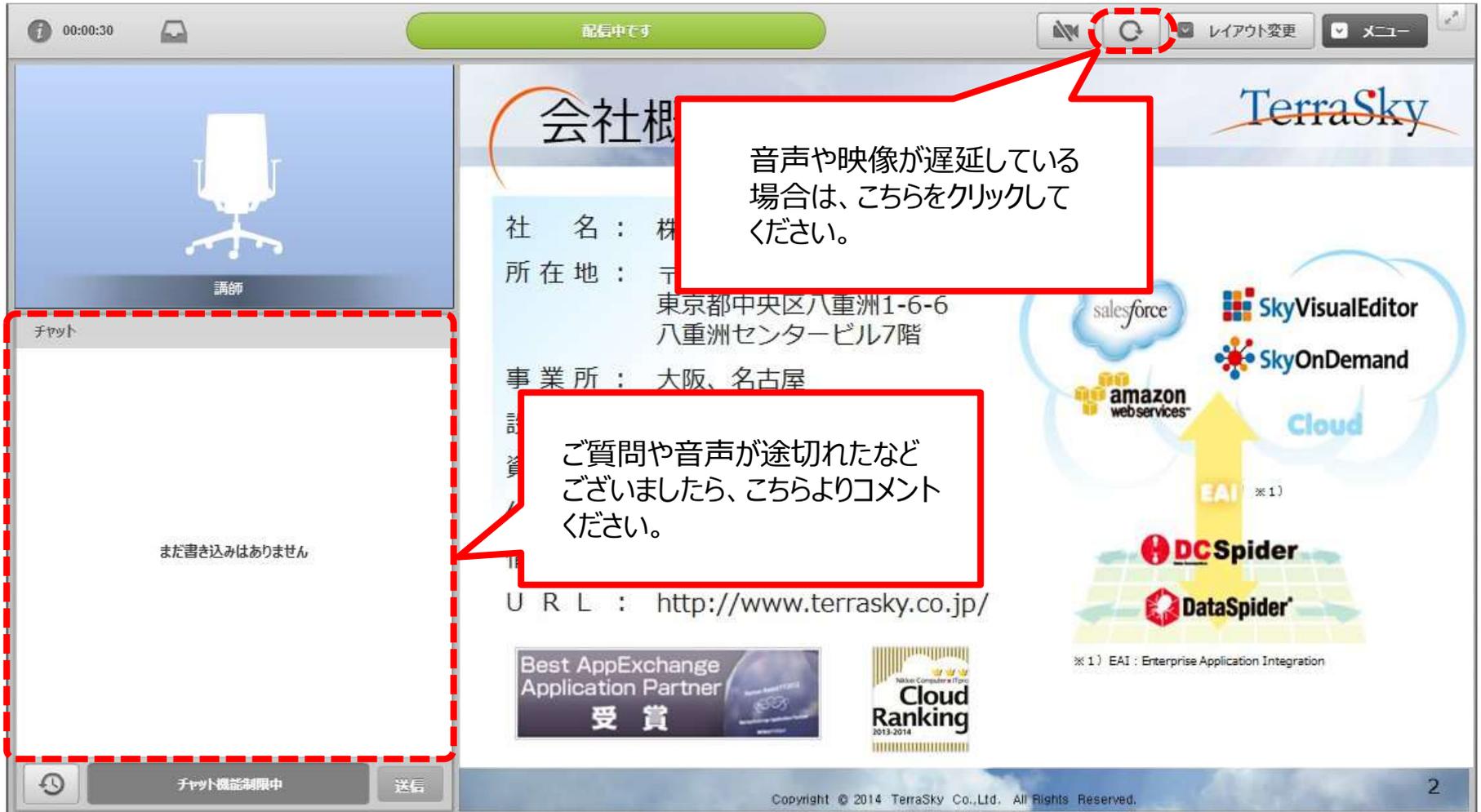


SkyOnDemandオンラインセミナー

～第8回：基本編～

使ってみよう③ 連携フロー：エラー処理で効率的な運用を実現



00:00:30 配信中です

音声や映像が遅延している場合は、こちらをクリックしてください。

会社概要

社名：株式会社 TerraSky
所在地：〒105-8501 東京都中央区八重洲1-6-6
八重洲センタービル7階
事業所：大阪、名古屋

URL : <http://www.terrasky.co.jp/>

まだ書き込みはありません

チャット機能制限中 送信

Best AppExchange Application Partner 受賞

Cloud Ranking 2013-2014

salesforce amazon web services SkyVisualEditor SkyOnDemand Cloud EAI DCSpider DataSpider

※ 1) EAI : Enterprise Application Integration

Copyright © 2014 TerraSky Co.,Ltd. All Rights Reserved.

SkyOnDemandの活用術を、毎月テーマに沿ってお届けします。
過去のウェビナーの動画・資料は、下記URLよりご覧頂けます。

<http://www.terrasky.co.jp/document/skyondemand/>



The screenshot shows a web browser window displaying the TerraSky website. The address bar shows the URL www.terrasky.co.jp/document/skyondemand/. The page features the TerraSky logo and navigation menus for products, services, case studies, and company information. The breadcrumb trail indicates the current location: HOME > コンテンツライブラリ > SkyOnDemand/DCSpider. The main heading is "資料ダウンロード : SkyOnDemand/DCSpider". Two seminar entries are listed:

- SkyOnDemand オンラインセミナー ～第2回 基本編～**
2014年06月19日 | SkyOnDemand/DCSpider
さわってみよう【1】 取引先データをSalesforceへファイル連携 (25分)
- SkyOnDemand オンラインセミナー ～第1回 準備編～**
2014年05月29日 | SkyOnDemand/DCSpider
SkyOnDemandにログインしてみよう (23分)

～第8回：基本編～

使ってみよう③ ～連携フロー：エラーハンドリング～



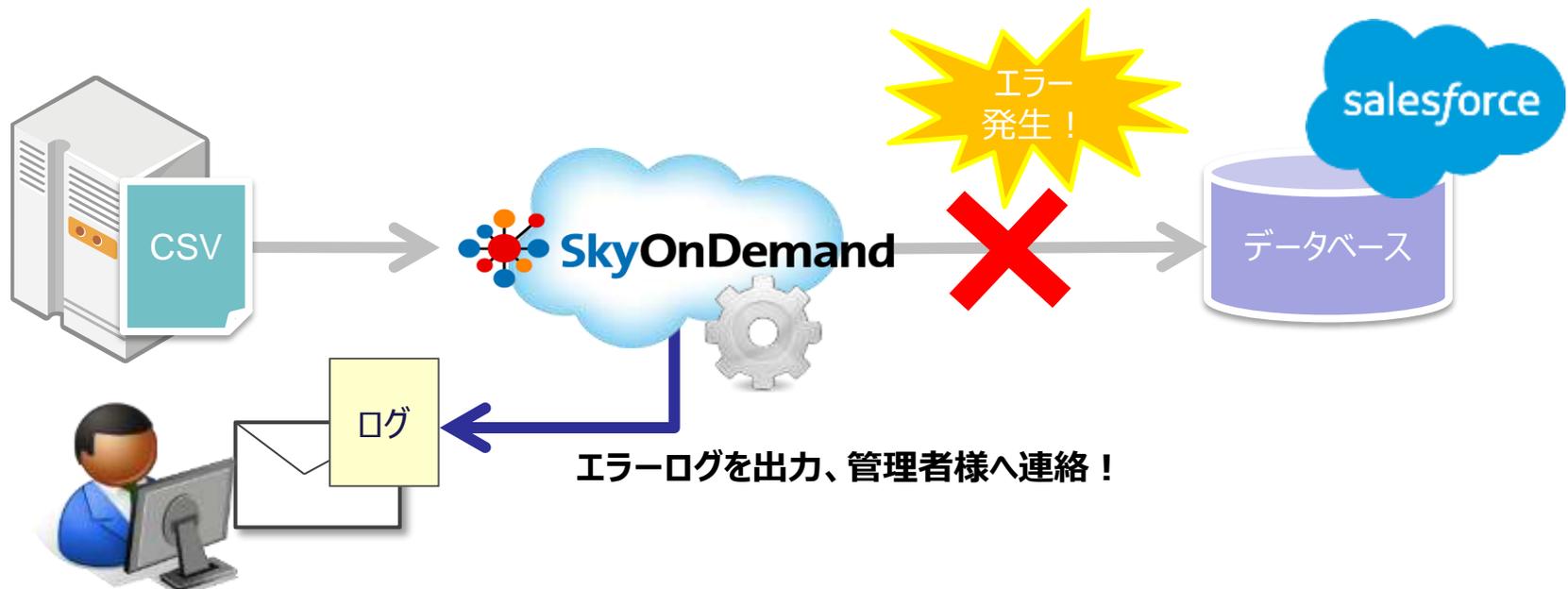
本日のゴール

- ・例外監視・例外通知アイコンを利用し、エラーハンドリング方法を理解する。
- ・ログの出力設定の方法を理解する。

エラーハンドリングとは・・・

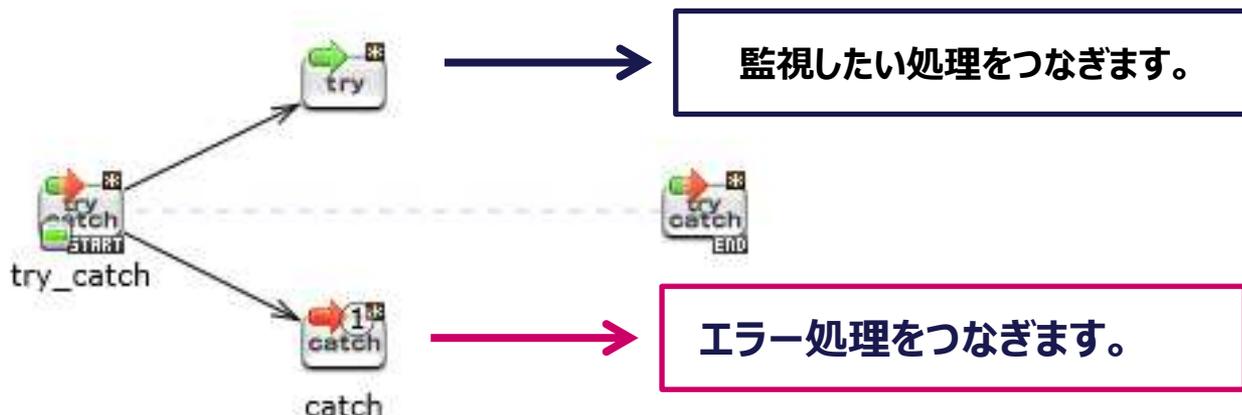
例外監視機能を利用し、連携処理の途中でエラーが発生していないかどうかを監視し、エラー発生時にはエラー処理を定義・実行することができます。
また、例外通知機能を利用することで、ある条件でエラーを判断し、エラーを通知することが可能です。

【処理イメージ(例)】



①例外監視アイコン

例外監視アイコンは4つのアイコンで構成されます。



②例外通知機能

例外を発生させます。



- 例外監視対象：
CSV形式の「Contacts.csv」をSalesforceの「取引先責任者」オブジェクトに登録する
- エラー内容
連携先のSalesforceにアクセスする際に、認証エラーが発生
- エラー処理
エラーログを出力し、例外通知する。

【連携処理スクリプトイメージ】



使ってみよう！

1 監視対象処理を作成

2 ログ出力処理の作成

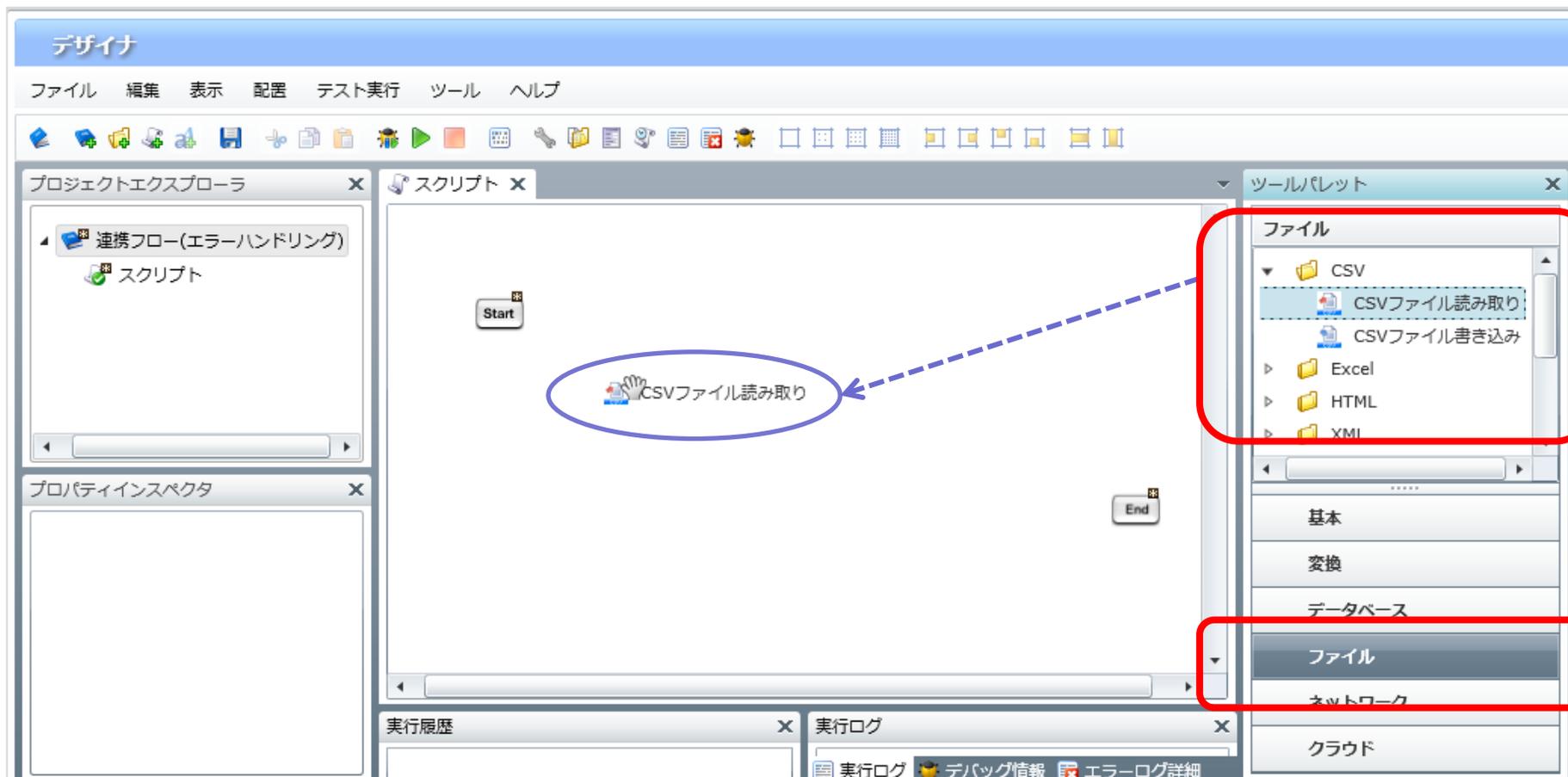
3 例外通知処理の作成

監視対象処理の作成(1/8)

① CSVファイル「Contacts.csv」の読み取り

ツールパレット > ファイル > CSV > CSVファイル読み取りアイコンをキャンバスにドラッグ & ドロップします。

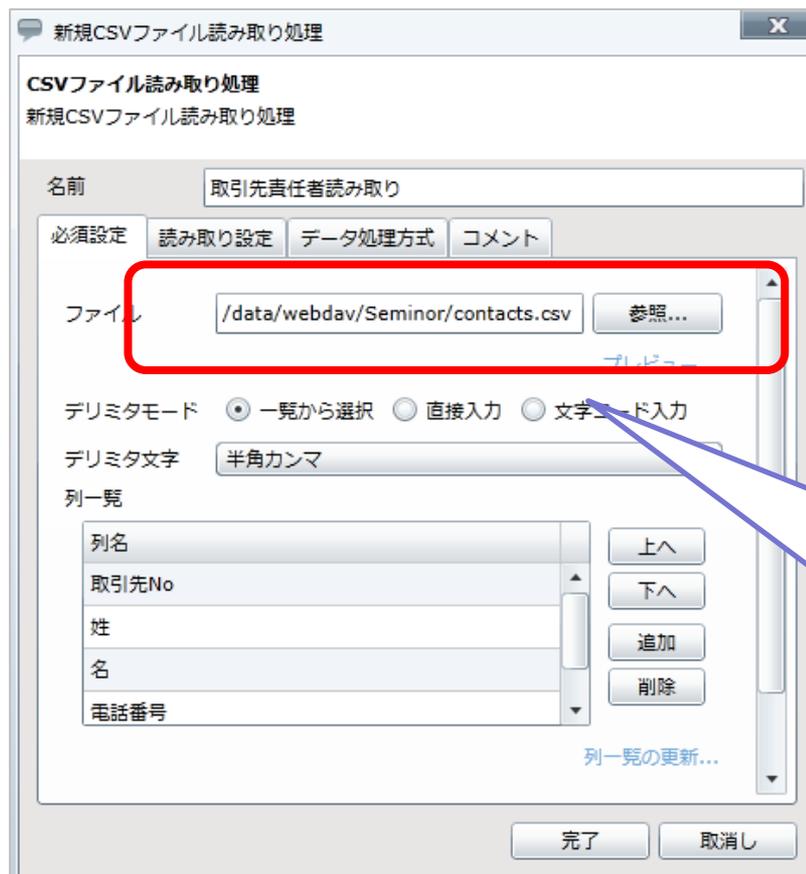
※グローバルリソースの設定、プロジェクトとスクリプトの作成方法は、第2回オンラインセミナーの資料P18をご確認ください。



監視対象処理の作成(2/8)

① CSVファイル「Contacts.csv」の読み取り

- CSVファイル読み取りウィンドウが表示されます。ファイルの格納先を選択し、列一覧の更新をクリックします。
- 「読み取り設定」タブを開き、「最初の行は値として取得しない」にチェックを入れます。
- 完了をクリックします。



新規CSVファイル読み取り処理

CSVファイル読み取り処理
新規CSVファイル読み取り処理

名前

必須設定 **読み取り設定** データ処理方式 コメント

ファイル

デリミタモード 一覧から選択 直接入力 文字コード入力

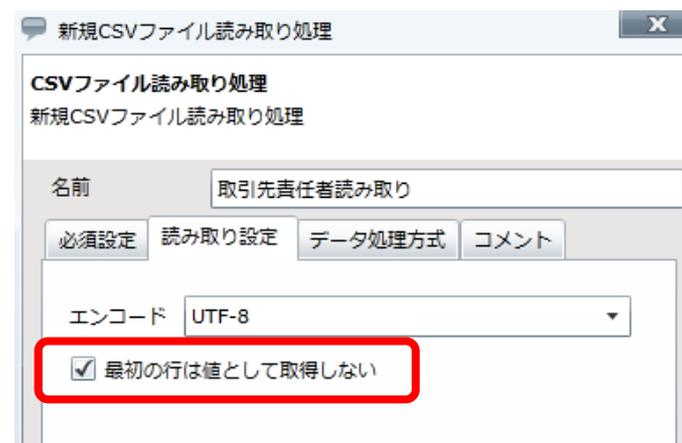
デリミタ文字

列名
取引先No
姓
名
電話番号

上へ 下へ 追加 削除

列一覧の更新...

完了 取消し



新規CSVファイル読み取り処理

CSVファイル読み取り処理
新規CSVファイル読み取り処理

名前

必須設定 **読み取り設定** データ処理方式 コメント

エンコード

最初の行は値として取得しない

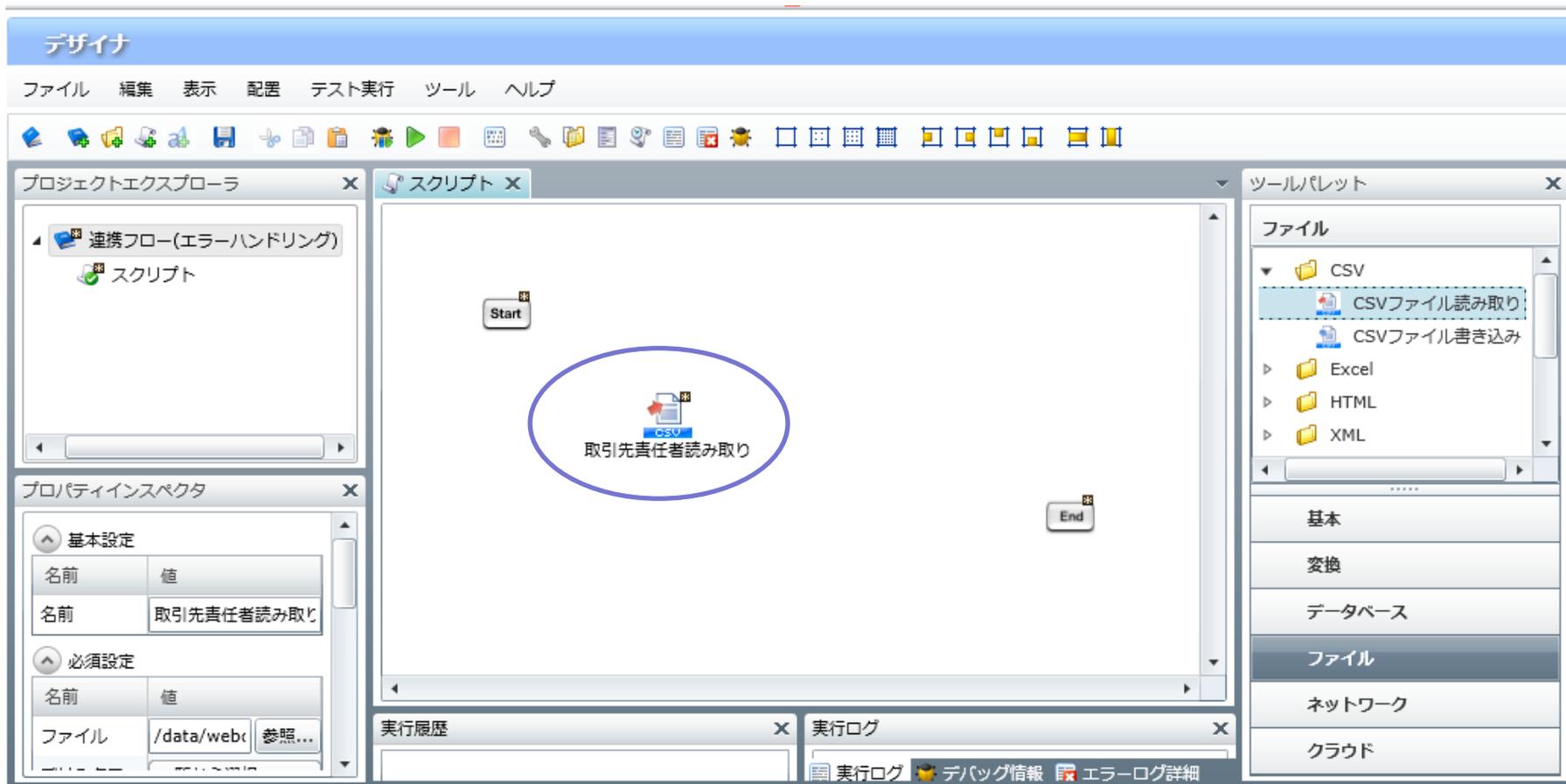
●今回読み取るCSVファイル「Contacts.csv」

取引先No, 姓, 名, 電話番号, メール↓
1, 赤根, 太郎, 03-5835-0712, akane@terrasky.co.jp↓
1, 秋山, 勝次, 03-5835-0712, akiyama@terrasky.co.jp↓
2, 幾原, 太郎, 03-3463-0013, ikuhara@suzuki-corp.jp↓
3, 井上, 俊, 03-3695-0022, inoue@cloud.co.jp↓
4, 大塚, 一成, 042-551-0039, otsuka@salespower.co.jp↓

監視対象処理の作成(3/8)

① CSVファイル「Contacts.csv」の読み取り

CSVファイル読み取りの設定は完了です。

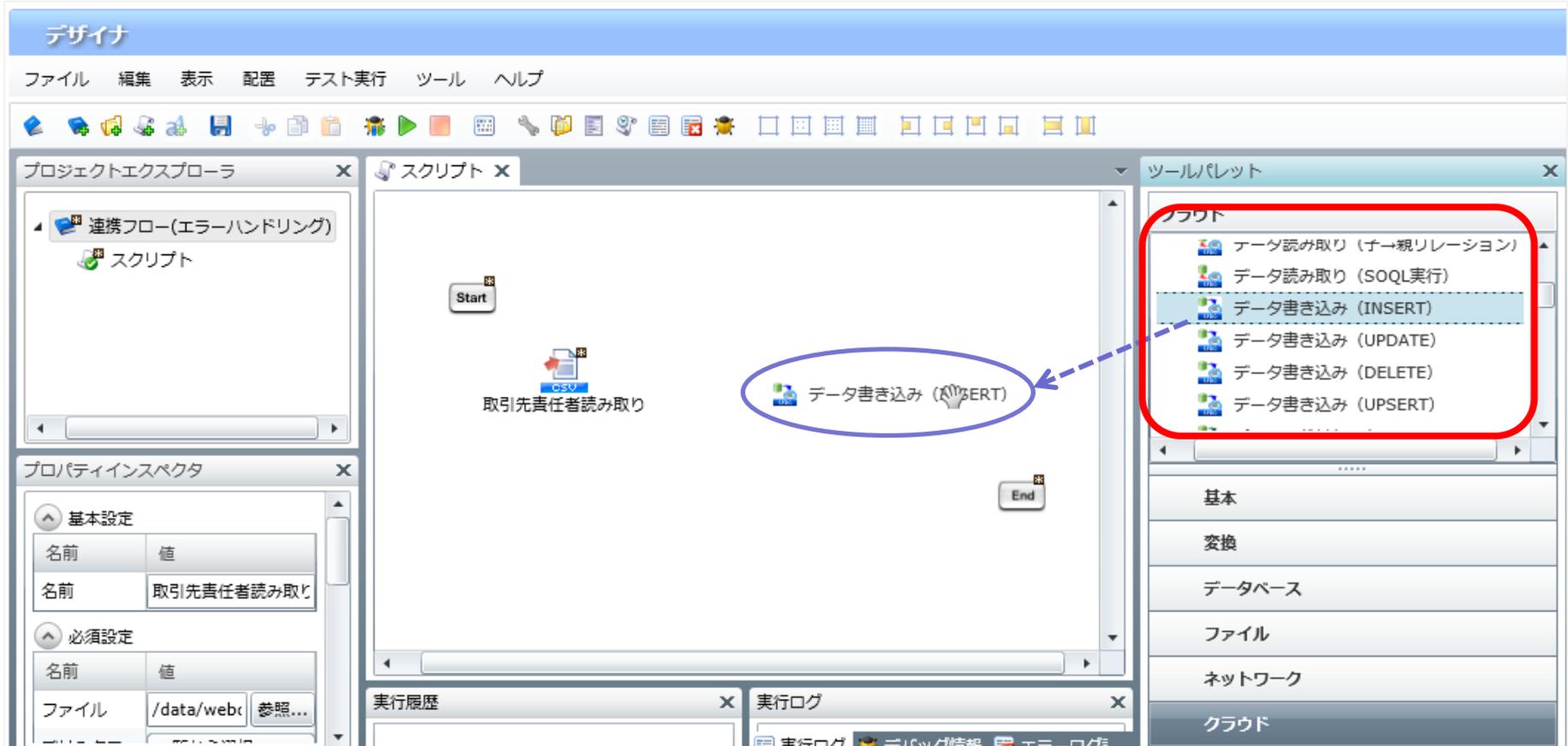


The screenshot shows the SkyOnDemand design tool interface. The main workspace displays a workflow with a 'Start' node, a 'CSV' script node (circled in blue), and an 'End' node. The 'CSV' node is labeled '取引先責任者読み取り'. The 'ツールパレット' (Tool Palette) on the right shows the 'CSV' folder expanded, with 'CSVファイル読み取り' selected. The 'プロパティンスペクタ' (Property Inspector) on the left shows the '必須設定' (Required Settings) section with the 'ファイル' (File) property set to '/data/webc' and a '参照...' (Reference...) button. The top menu bar includes 'ファイル', '編集', '表示', '配置', 'テスト実行', 'ツール', and 'ヘルプ'. The bottom status bar shows '実行履歴' (Execution History) and '実行ログ' (Execution Log).

監視対象処理の作成(4/8)

②Salesforce「取引先責任者」オブジェクトへの書き込み

ツールパレット> クラウド> Salesforce> 「データ書き込み(INSERT)」アイコンをキャンバスにドラッグ & ドロップします。



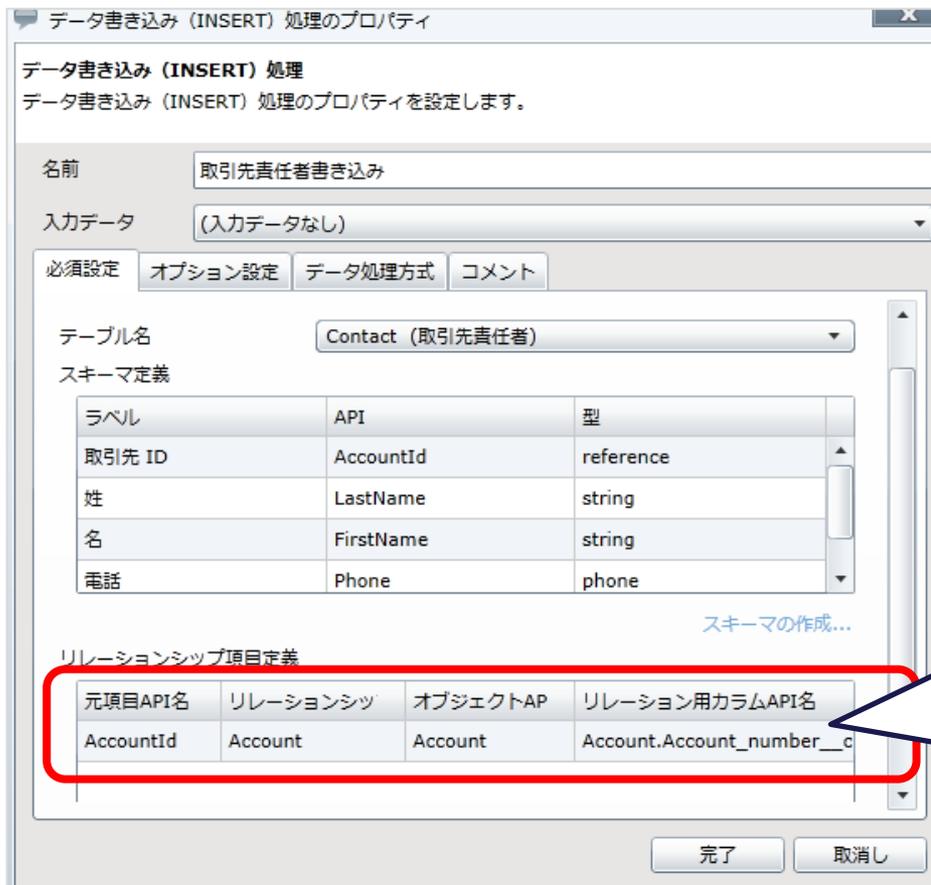
監視対象処理の作成(5/8)

②Salesforce「取引先責任者」オブジェクトへの書き込み

接続先：あらかじめグローバルリソースで設定をした接続先のSalesforceを選択

テーブル名：「Contact(取引先責任者)」を選択

スキーマの作成：連携対象の項目(今回は、取引先ID、姓、名、電話、メールの5項目)を選択



データ書き込み (INSERT) 処理のプロパティ

データ書き込み (INSERT) 処理
データ書き込み (INSERT) 処理のプロパティを設定します。

名前

入力データ

必須設定 オプション設定 データ処理方式 コメント

テーブル名

スキーマ定義

ラベル	API	型
取引先 ID	AccountId	reference
姓	LastName	string
名	FirstName	string
電話	Phone	phone

リレーションシップ項目定義

元項目API名	リレーションシップ	オブジェクトAP	リレーション用カラムAPI名
AccountId	Account	Account	Account.Account_number__c

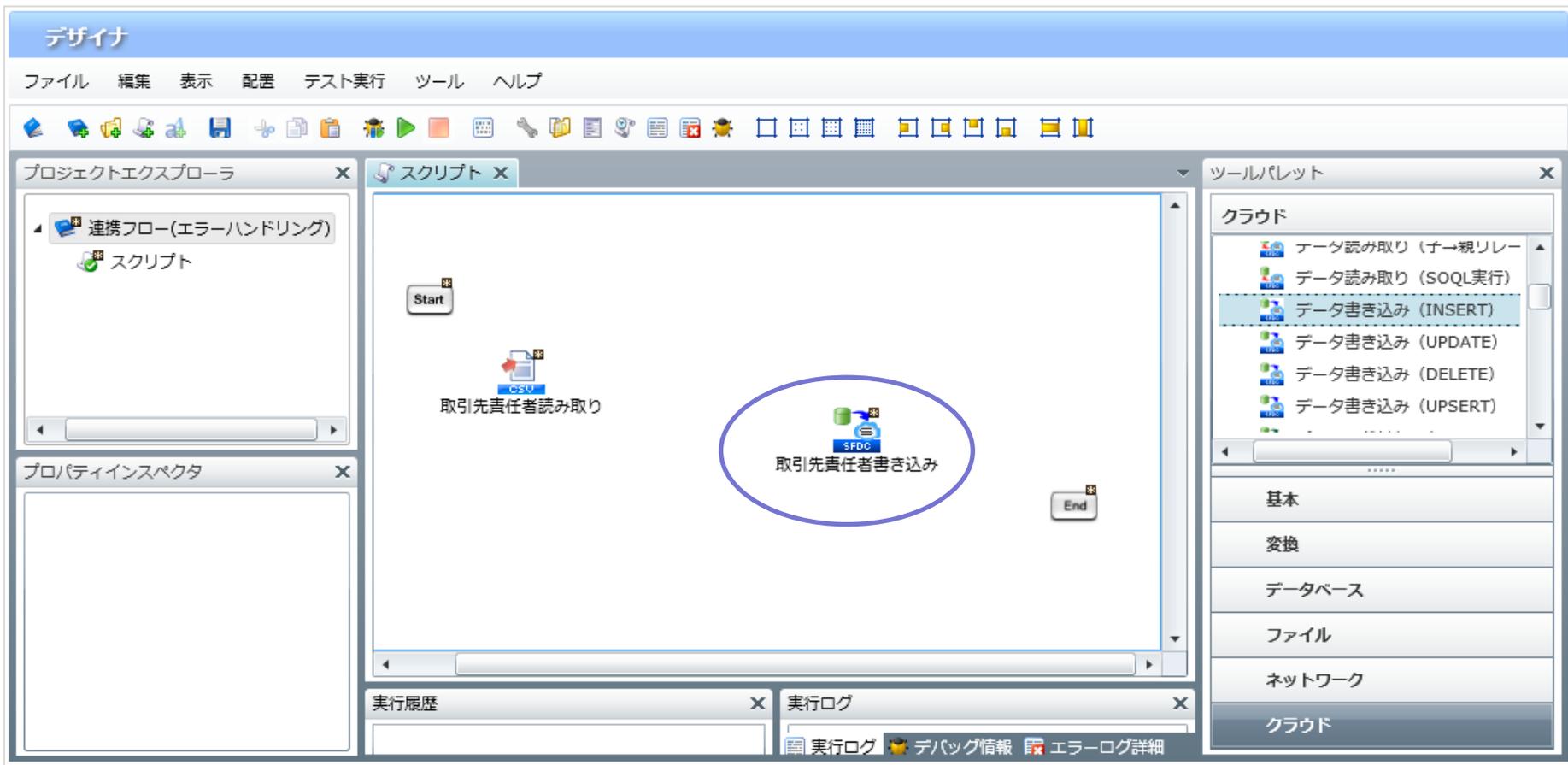
完了 取消し



取引先責任者(Contact)への更新にて、取引先IDの項目(参照項目)へ参照先オブジェクトとなる取引先(Account)の取引先コード(あらかじめ作成した外部キー項目:Account_numberCode__c)の値をMapperに受け渡す事により更新時に対応する参照先オブジェクトのIDを自動で取得してリレーション関係を設定します。

監視対象処理の作成(6/8)

②Salesforce「取引先責任者」オブジェクトへの書き込み 取引先責任者への書き込み設定は完了です。



The screenshot shows the 'デザイン' (Design) tool interface. The main workspace displays a workflow diagram with the following steps:

- Start
- 取引先責任者読み取り (Account Manager Read)
- 取引先責任者書き込み (Account Manager Write) - This step is circled in blue.
- End

The 'ツールパレット' (Tool Palette) on the right side is open, showing the 'クラウド' (Cloud) category. The 'データ書き込み (INSERT)' (Data Write (INSERT)) tool is selected and highlighted.

Other visible panels include:

- プロジェクトエクスプローラ (Project Explorer) showing '連携フロー(エラーハンドリング)' and 'スクリプト'.
- プロパティインスペクタ (Property Inspector) which is currently empty.
- 実行履歴 (Execution History) and 実行ログ (Execution Log) panels at the bottom.

③ マッピング設定

CSVファイル読み取りのアイコン「取引先責任者読み取り」からSalesforceデータ書き込みのアイコン「取引先責任者書き込み」へプロセスフローとデータフローを引き、マッピングを追加します。

入力元から出力元へ項目の移送設定を行います。

▼入力元のCSV

▼出力先のSalesforce

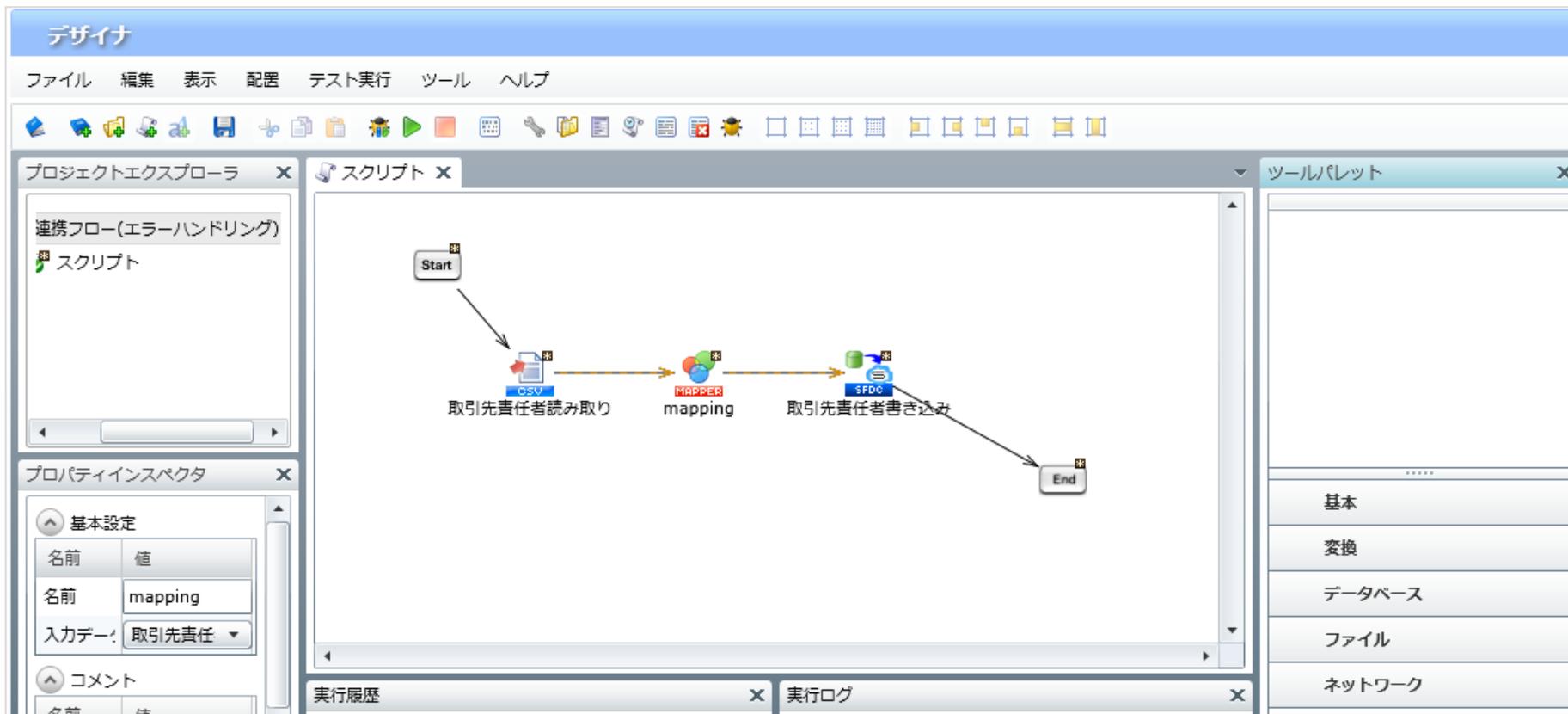


※今回はデータの加工は行わず、項目移送のみで進めます。

監視対象処理の作成(8/8)

監視対象スクリプト完成

今回の監視対象となる、取引先責任者の連携処理が完成です。



The screenshot displays the BizTalk Studio interface in the 'Design' view. The main workspace shows a workflow diagram with the following steps:

- Start** (Start node)
- 取引先責任者読み取り** (Retrieve account manager) - CSW component
- mapping** (Mapping component)
- 取引先責任者書き込み** (Write account manager) - SFDC component
- End** (End node)

The workflow is connected by arrows: Start to Retrieve account manager, Retrieve account manager to Mapping, Mapping to Write account manager, and Write account manager to End.

On the left side, the 'プロジェクトエクスプローラ' (Project Explorer) shows a folder named '連携フロー(エラーハンドリング)' containing a 'スクリプト' (Script) file. Below it, the 'プロパティインスペクタ' (Property Inspector) is open, showing the '基本設定' (Basic Settings) tab with the following details:

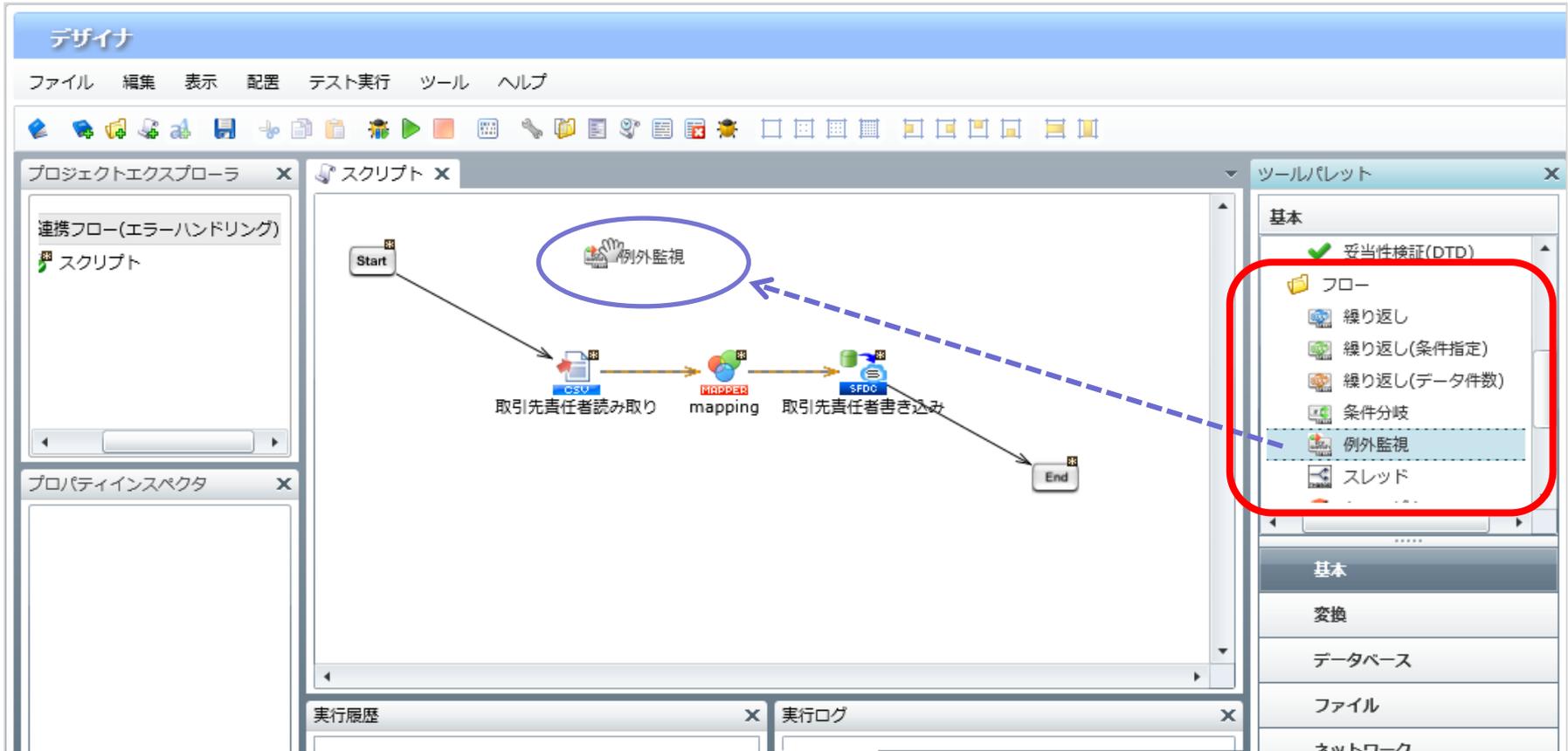
名前	値
名前	mapping
入力データ	取引先責任

On the right side, the 'ツールパレット' (Tool Palette) is visible, showing categories like '基本' (Basic), '変換' (Transformation), 'データベース' (Database), 'ファイル' (File), and 'ネットワーク' (Network).

例外監視処理の作成(1/4)

①例外監視処理の設定

ツールパレット> 基本> フロー> 「例外監視」アイコンをキャンバスにドラッグ & ドロップします。



The screenshot displays the 'デザイン' (Design) window of a software development tool. The main canvas shows a flowchart starting with a 'Start' node, followed by three process nodes: '取引先責任者読み取り' (Customer Account Reading) using the 'OSU' tool, 'mapping', and '取引先責任者書き込み' (Customer Account Writing) using the 'SFDC' tool, ending at an 'End' node. A red dashed arrow points from the '例外監視' (Exception Monitoring) icon in the 'ツールパレット' (Tool Palette) to the 'mapping' node in the flowchart. The '例外監視' icon is circled in blue. The 'ツールパレット' (Tool Palette) is open to the '基本' (Basic) category, and the '例外監視' icon is highlighted with a red box. The '例外監視' icon is a hand holding a magnifying glass over a document.

例外監視処理の作成(3/4)

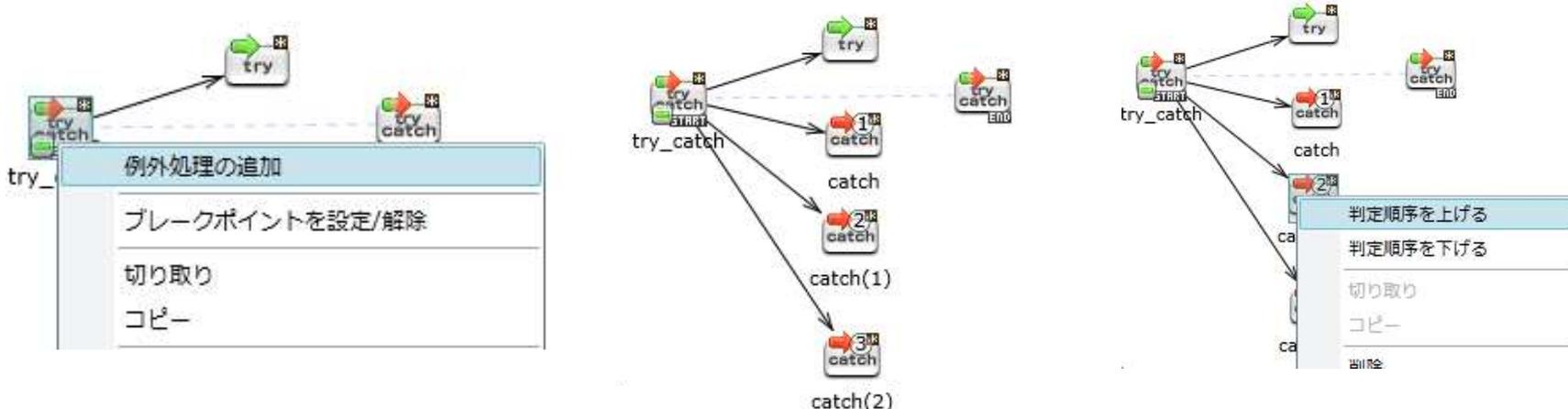


例外監視は、以下の4つのアイコンで構成されています。

アイコン	名称	説明
	例外監視開始	例外監視の開始を表します。
	監視処理	監視したいコンポーネントを後続に配置します。
	例外処理	対象となるコンポーネントで例外が発生した場合の処理を後続に配置します。 ダブルクリックで対象となるコンポーネントを指定します。
	例外監視終了	例外監視の終了を表します。

例外処理は、「例外処理開始」アイコンの右クリックメニューから追加することができます。

複数のアイコンがある場合は、アイコンに表示されている番号の順番に判定されます。この番号は、「例外処理」アイコンの右クリックメニューから順序を変更することができます。

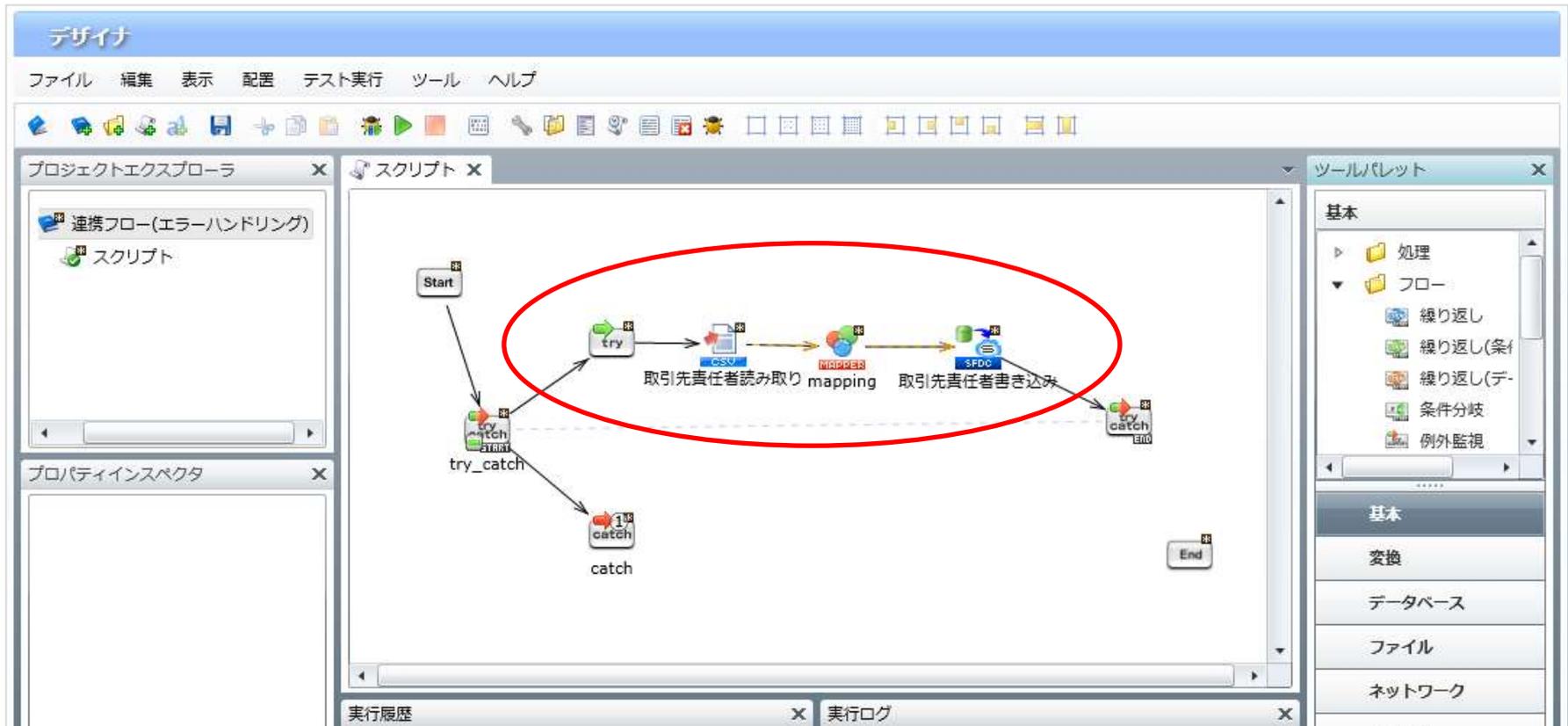


例外監視処理の作成(4/4)

①例外監視処理の設定

Try(監視処理)アイコンの後ろに、監視対象スクリプトを配置します。

「CSV(Contact.csv)の読み取り→マッピング→Salesforce(取引先責任者)の書き込み」の一連の処理が、監視の対象となります。



ログ出力処理の作成(1/7)

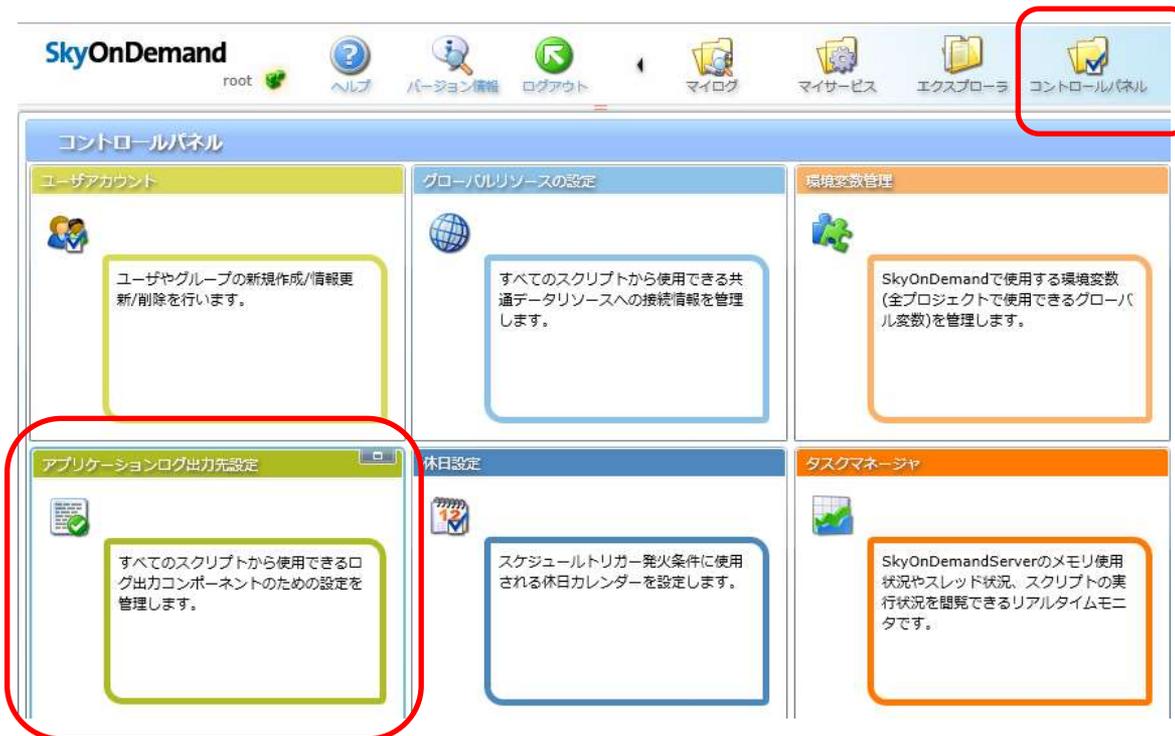
① ログの出力先設定

Catch(例外処理)アイコンの後ろに、エラー時の例外処理を設定いたします。
今回は、例外処理として、**ログを出力する設定**を作成します。

ログの出力先の設定

エラーログの出力先は事前に設定をしておきます。

WebStudioメニューのコントロールパネル> **アプリケーションログ出力先設定**で指定をします。

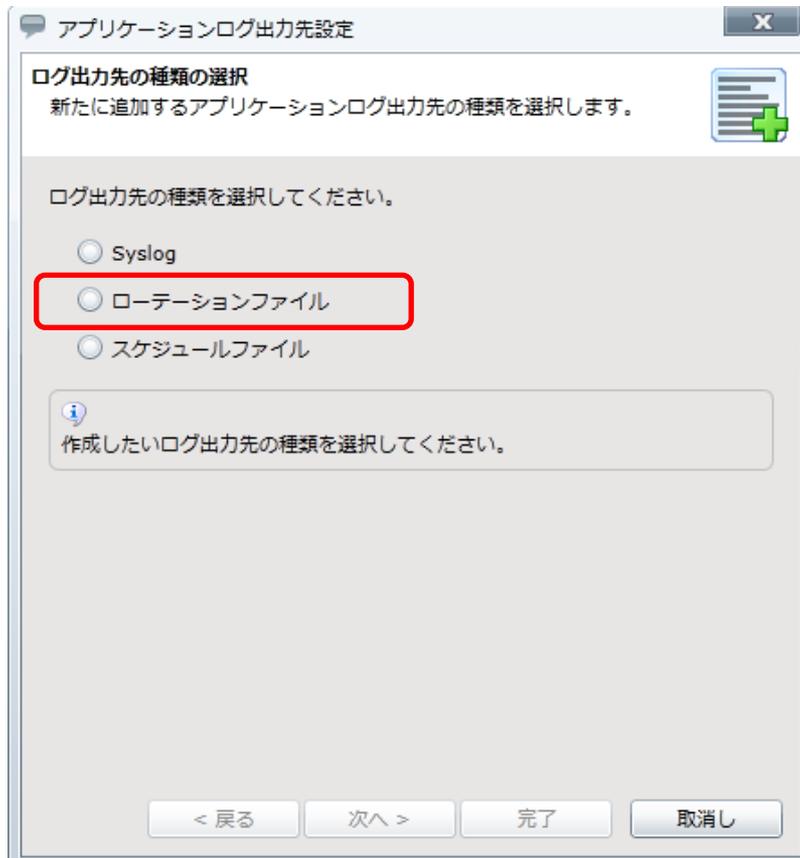


The screenshot shows the SkyOnDemand Control Panel interface. The top navigation bar includes icons for 'root', 'ヘルプ', 'バージョン情報', 'ログアウト', 'マイログ', 'マイサービス', 'エクスプローラ', and 'コントロールパネル'. The 'コントロールパネル' icon is highlighted with a red box. Below the navigation bar, the main content area is titled 'コントロールパネル' and contains several panels: 'ユーザアカウント', 'グローバルリソースの設定', '環境変数管理', '休日設定', and 'タスクマネージャ'. The 'アプリケーションログ出力先設定' panel is highlighted with a red box and contains the following text: 'すべてのスクリプトから使用できるログ出力コンポーネントのための設定を管理します。'

ログ出力処理の作成(2/7)

① ログの出力先設定

ファイル> 新規アプリケーションログ出力先作成をクリックします。
ログ出力先設定画面が開きます。
今回は、ログの出力先に、「ローテーションファイル」を選択します。



ログの出力先には、次の3つの種類があります。

① **Syslog** :
遠隔のSyslogデーモンへログを送信する場合に選択

② **ローテーションファイル** :
ログをファイルに書き出す場合に選択(ファイルが指定した最大ファイルサイズに到達した際にロールアップを行い、指定した数のバックアップファイルを保持する場合)

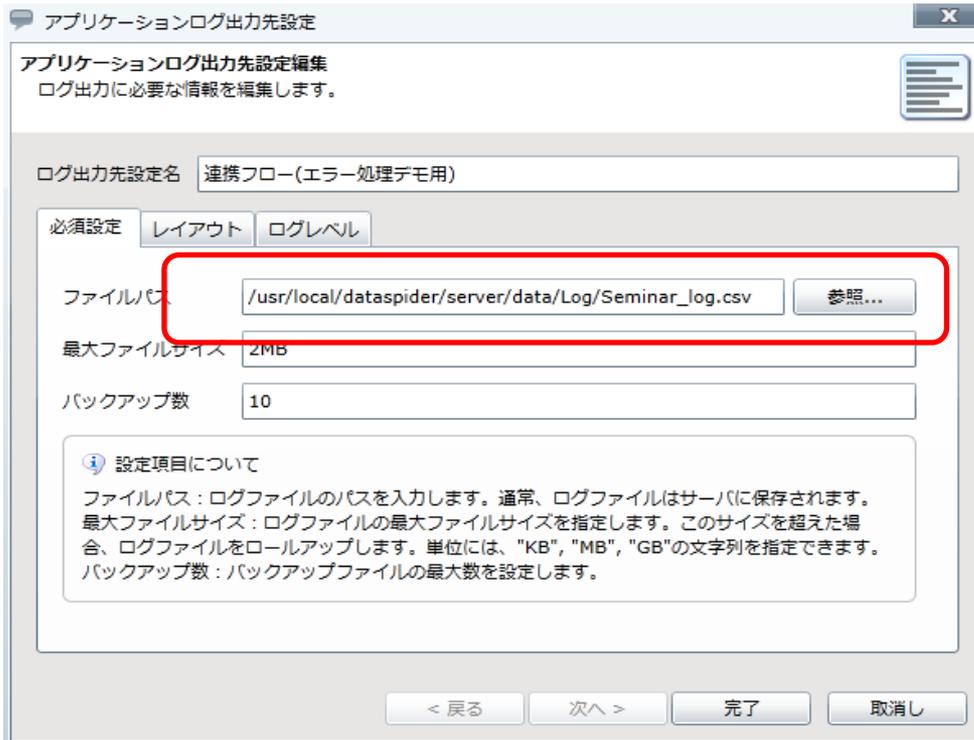
③ **スケジュールファイル** :
ログをファイルに書き出す場合に選択(スケジュールに合わせてログファイルをロールアップし、バックアップファイルを保持する場合)

ログ出力処理の作成(3/7)

① ログの出力先設定

ログ出力先のファイルパスとファイル名を設定します。

ログレベルタブにて、「ログレベルしきい値」を「DEBUG」に設定して「了解」ボタンをクリックします。



アプリケーションログ出力先設定

アプリケーションログ出力先設定編集
ログ出力に必要な情報を編集します。

ログ出力先設定名 連携フロー(エラー処理デモ用)

必須設定 レイアウト ログレベル

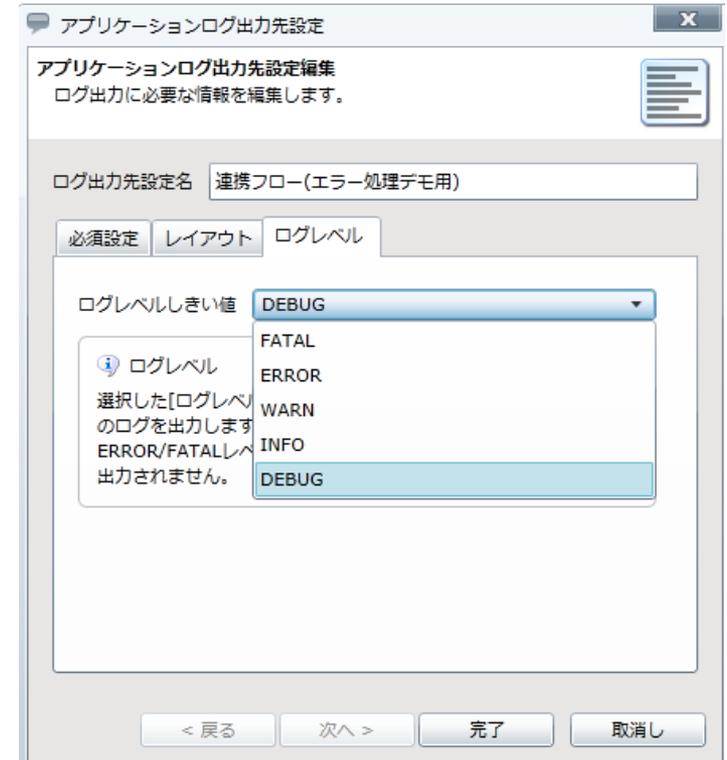
ファイルパス 参照...

最大ファイルサイズ

バックアップ数

① 設定項目について
ファイルパス：ログファイルのパスを入力します。通常、ログファイルはサーバに保存されます。
最大ファイルサイズ：ログファイルの最大ファイルサイズを指定します。このサイズを超えた場合、ログファイルをロールアップします。単位には、「KB」、「MB」、「GB」の文字列を指定できます。
バックアップ数：バックアップファイルの最大数を設定します。

< 戻る 次へ > 完了 取消し



アプリケーションログ出力先設定

アプリケーションログ出力先設定編集
ログ出力に必要な情報を編集します。

ログ出力先設定名 連携フロー(エラー処理デモ用)

必須設定 レイアウト ログレベル

ログレベルしきい値

① ログレベル
選択した[ログレベル]のログを出力します。ERROR/FATALレベルは出力されません。

FATAL
ERROR
WARN
INFO
DEBUG

< 戻る 次へ > 完了 取消し

「ログレベルしきい値」でどのログレベル以上のログを出力するかを設定します。設定したしきい値より低いログレベルのログは無視されます。

ログ出力処理の作成(4/7)

① ログの出力先設定

作成したローテーションファイルの出力先が追加されていることを確認します。
これで、ログの出力先の設定は完了です。

コントロールパネル

アプリケーションログ出力先設定

ファイル 表示

名前	種類	オーナー
連携フロー(エラー処理デモ用)	ローテーションファイル	root

ユーザーアカウント

グローバルリソースの設定

環境変数管理

休日設定

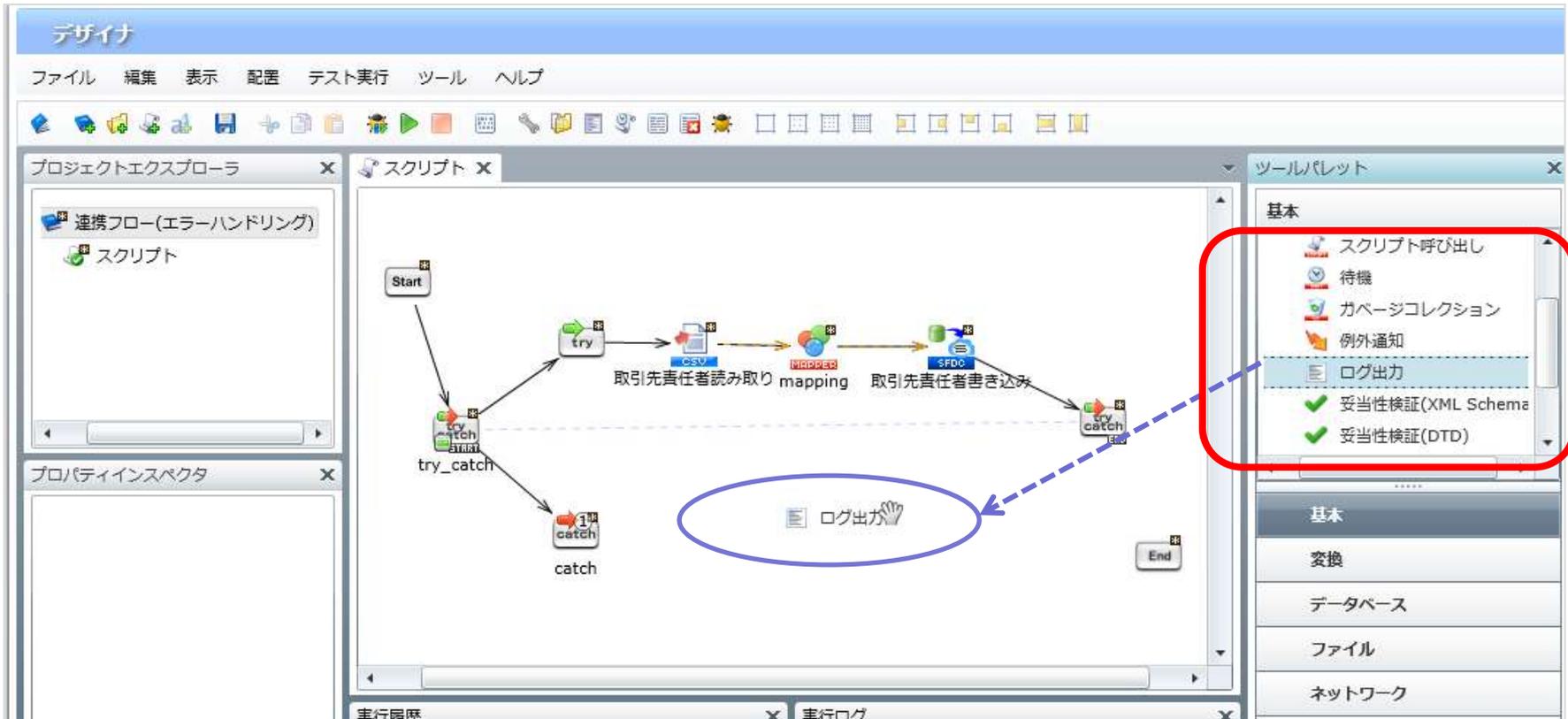
タスクマネージャ

ログ出力処理の作成(5/7)

②例外処理の設定(ログの出力設定)

Catch(例外処理)アイコンの後ろに、ログを出力する設定を作成します。

ツールパレット > 基本 > 処理 > 「ログ出力」アイコンをキャンバスにドラッグ & ドロップいたします。



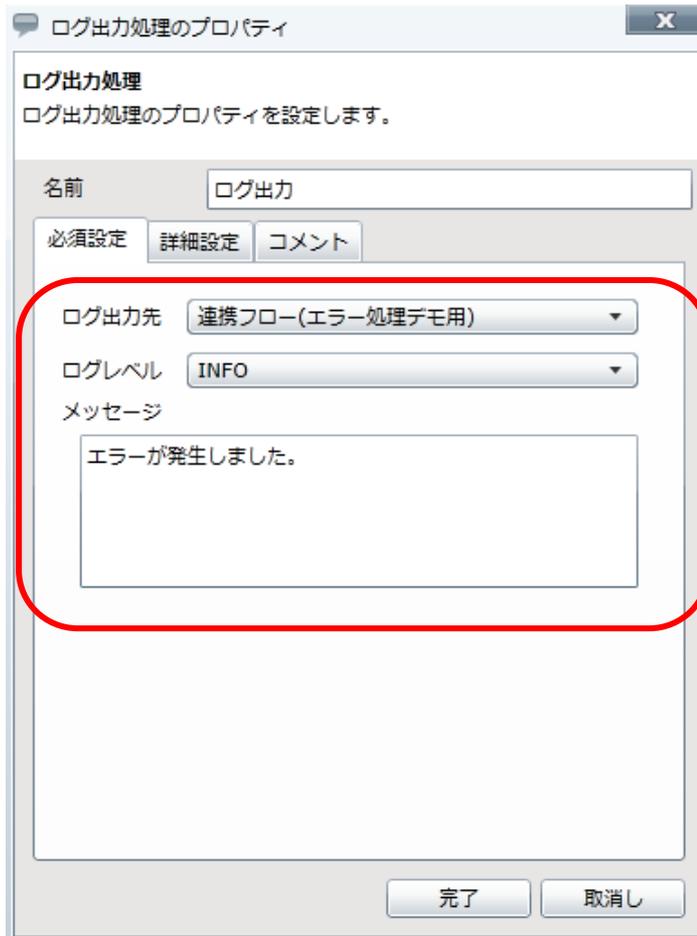
The screenshot shows the design tool interface with the following components:

- プロジェクトエクスプローラ:** 連携フロー(エラーハンドリング), スクリプト
- スクリプト:** try, CSV (取引先責任者読み取り), mapper (mapping), SFDC (取引先責任者書き込み), try_catch, catch
- ツールパレット:** 基本 (Script call, Wait, Garbage collection, Exception notification, **Log output**, Validity check (XML Schema), Validity check (DTD)), 基本 (Transform, Database, File, Network)
- Canvas:** Start, try, CSV, mapper, SFDC, try_catch, catch, End. A 'ログ出力' icon is being dragged from the palette to the canvas and is circled in blue.

②例外処理の設定(ログの出力設定)

ログ出力処理設定画面が表示されます。

ログの出力先と、ログレベルを設定し、エラーメッセージを作成します。



- ログ出力先：
「アプリケーションログ出力先設定」で予め設定した出力先設定を選択
- ログレベル：
「アプリケーションログ出力先設定」の「ログレベルしきい値」で「DEBUG」を指定したため、DEBUG以上のログレベルを選択することができます。今回は「INFO」を選択します。

- メッセージ
ログに出力するメッセージを指定します。
メッセージには、変数(スクリプト変数、環境変数、コンポーネント変数)を利用することが可能です。

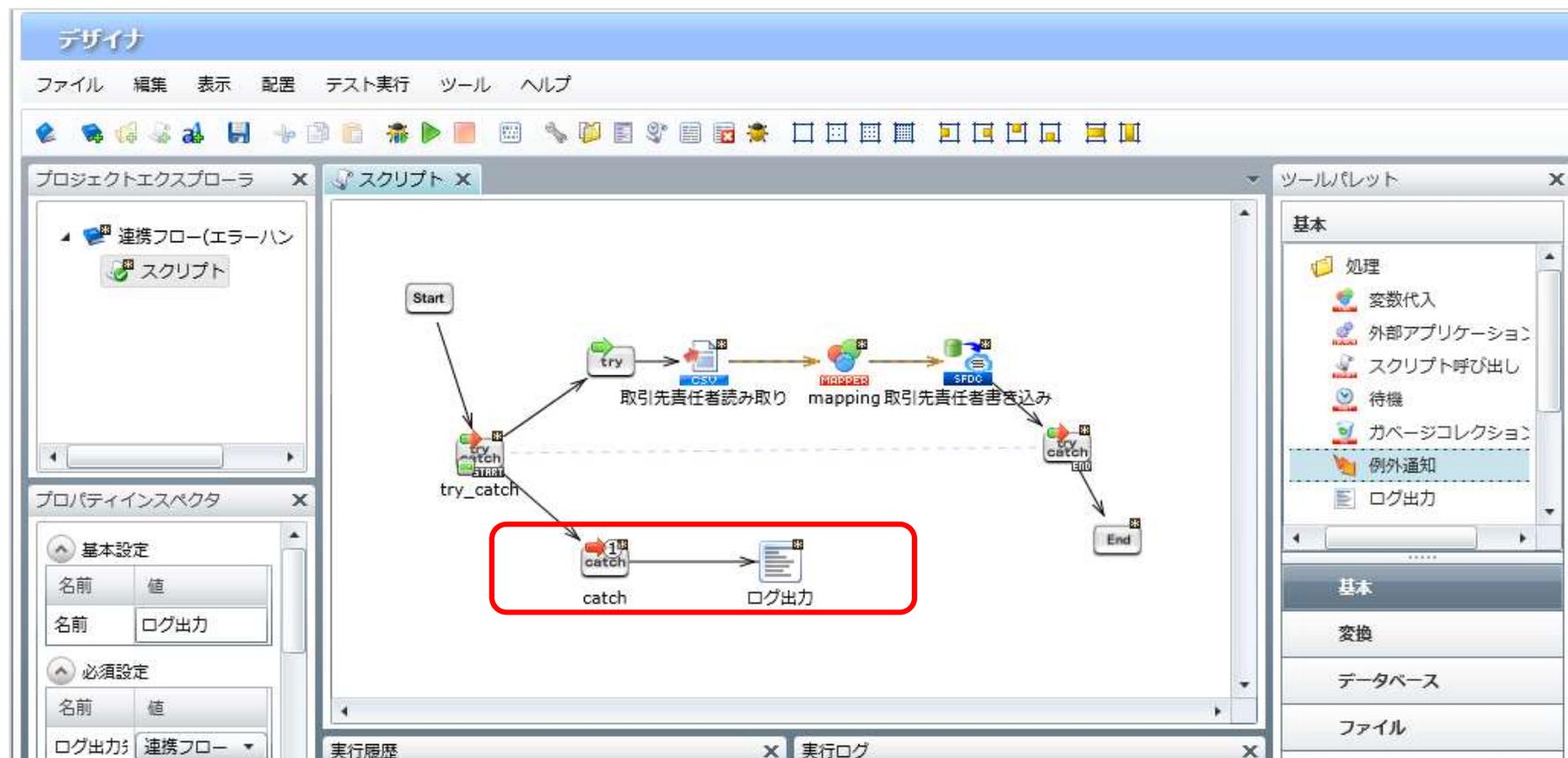


各アダプタのアイコンにて保持しているコンポーネント変数には、該当のアイコン処理実行時にエラーメッセージやエラーコード、データの取得件数や更新件数などがセットされます。

ログ出力処理の作成(7/7)

②例外処理の設定(ログの出力設定)

Catch(例外処理)アイコンからログアイコンにプロセスフローを引きます。
これでログの出力設定は完了です。



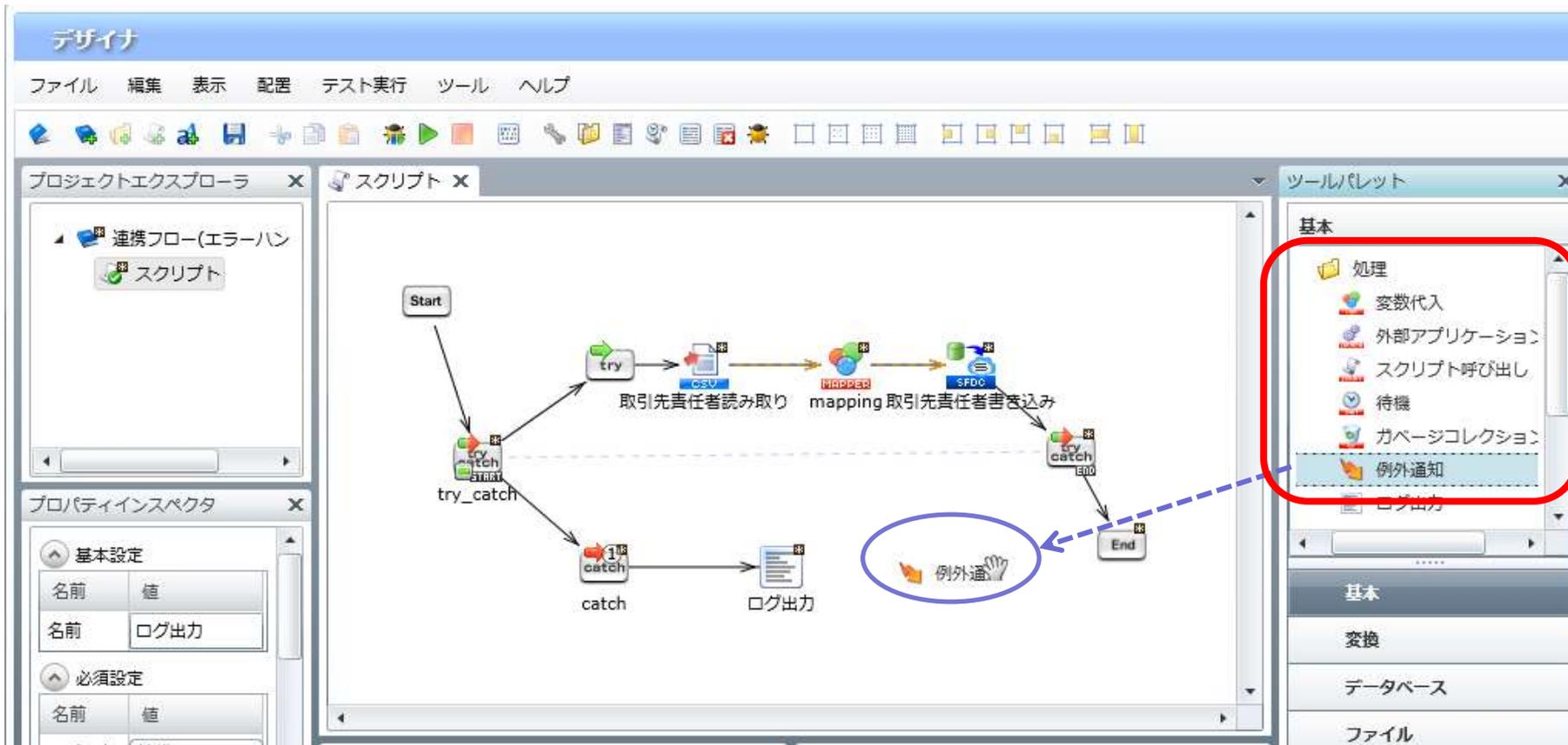
The screenshot shows the 'デザイン' (Design) window of a software development tool. The main canvas displays a process flow starting with a 'Start' node, followed by a 'try' node, then a 'CSV' node (labeled '取引先責任者読み取り'), a 'MAPPER' node (labeled 'mapping'), and an 'SFDC' node (labeled '取引先責任者書き込み'). The flow then enters a 'try_catch' block. Inside this block, a 'catch' node is connected to a 'ログ出力' (Log Output) icon. The 'catch' node and its connection to the log output icon are highlighted with a red rectangle. The 'try_catch' block ends with a 'try_catch END' node, which then leads to an 'End' node. On the left, the 'プロジェクトエクスプローラ' (Project Explorer) shows a '連携フロー(エラーハンドリング)' (Linked Flow (Error Handling)) folder containing a 'スクリプト' (Script) icon. Below it, the 'プロパティインスペクタ' (Property Inspector) shows the '基本設定' (Basic Settings) tab with '名前' (Name) set to 'ログ出力' (Log Output) and 'ログ出力' (Log Output) set to '連携フロー' (Linked Flow). On the right, the 'ツールパレット' (Tool Palette) shows the '例外通知' (Exception Notification) category selected, with 'ログ出力' (Log Output) as the active tool.

例外通知処理の作成(1/3)

①例外通知処理の設定

最後に、処理を例外通知させるための設定を行います。

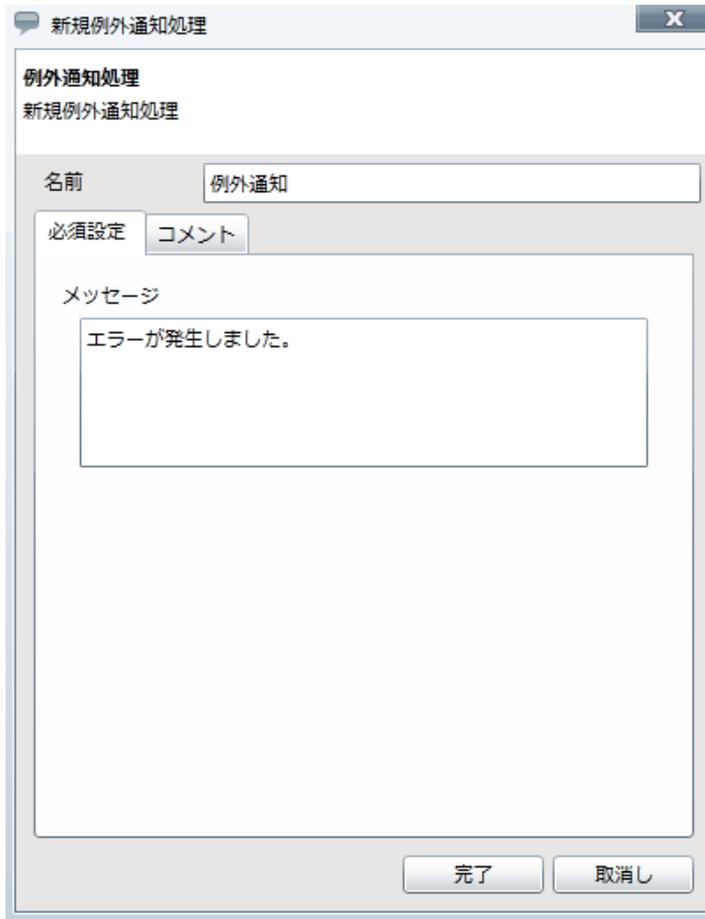
ツールパレット> 基本> 処理> 「例外通知」アイコンをキャンバスにドラッグ & ドロップします。



例外通知処理の作成(2/3)

① 例外通知処理の設定

例外通知処理の設定画面が開きます。
エラーメッセージを設定します。



新規例外通知処理

例外通知処理
新規例外通知処理

名前

必須設定 コメント

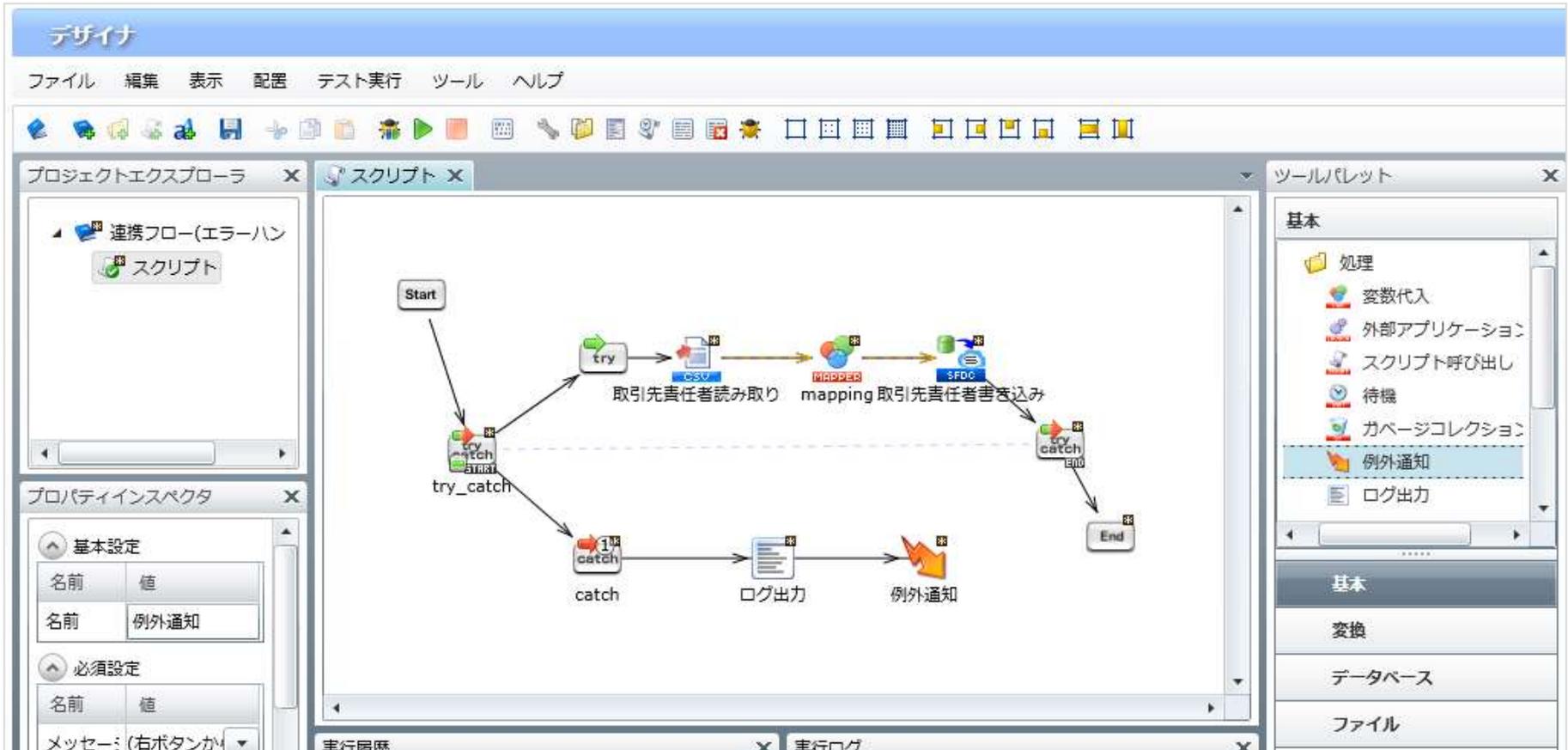
メッセージ

完了 取消し

例外通知処理の作成(3/3)

①例外通知処理の設定

最後に「ログ出力」アイコンから「例外通知」アイコンにプロセスフローを引き処理を完成させます。
これで設定は完了です。



処理の起動(正常系処理)

連携処理を起動してみましょう。

① 正常系処理の起動

デバック実行にて処理を実行してみましょう。

処理が成功し、Salesforceの「取引先責任者」オブジェクトに5件の取引先レコードが登録されます。



スクリーンショットはSalesforceの「取引先責任者」オブジェクトの画面を示しています。左側に「スクリプト実行」のメッセージボックスがあり、「スクリプトの実行に成功しました。」と表示されています。右側のメイン画面には「すべての取引先責任者」というタブがあり、その下に「新規取引先責任者」のリストが表示されています。

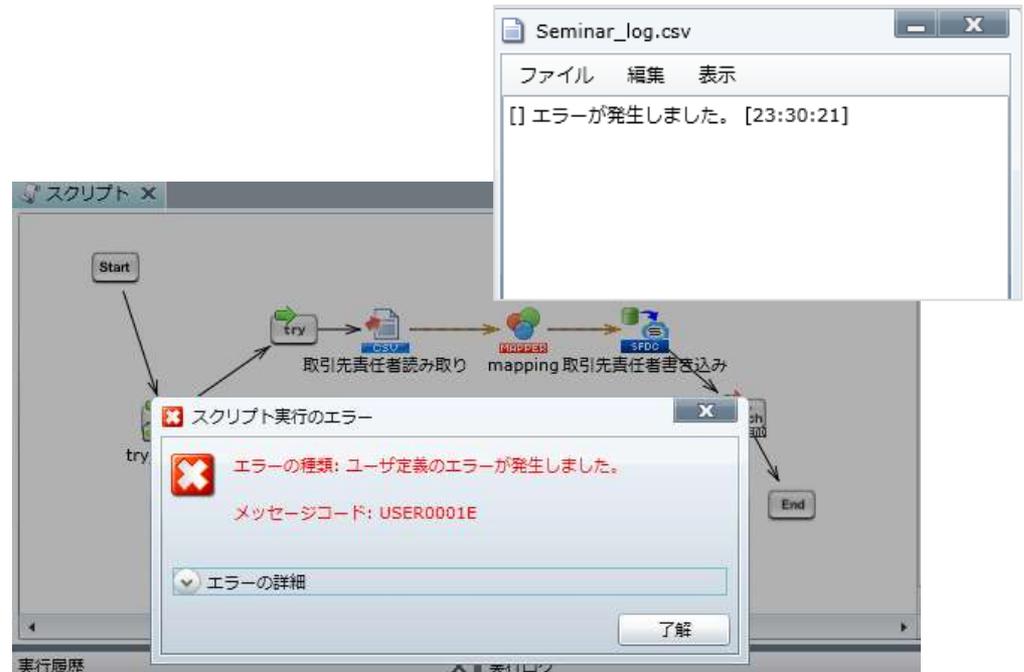
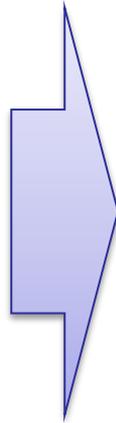
アクション	名前 ↑	取引先名	役職	電話	メール
編集 削除 +	井上 俊	日本クラウド株式...		03-3695-0022	inoue@cloud.co.jp
編集 削除 +	幾原 太郎	鈴木商事株式会社		03-3463-0013	ikuhara@suzuki-co...
編集 削除 +	秋山 勝次	株式会社テラスカイ		03-5835-0712	akiyama@terasky...
編集 削除 +	赤根 太郎	株式会社テラスカイ		03-5835-0712	akane@terasky.co.jp
編集 削除 +	太塚 一成	株式会社Sky364		042-551-0039	otsuka@salespo...

②異常系処理の起動

異常系処理を起動するために、認証エラーを発生させます。
グローバルリソースの接続設定を変更し、認証がエラーとなっていることを確認します。
この状態で、処理を実行してみましよう。
連携処理がエラーとなり、ログが出力されていれば異常系処理は完成です。



▲グローバルリソースの設定を変更



▲処理がエラーとなり、ログファイルが出力されていればOK！

本日のゴール

- ・例外監視・例外通知アイコンを利用し、エラーハンドリング方法を理解する。
- ・ログの出力設定の方法を理解する。

SkyOnDemandの活用事例が知りたい！

- ・ 1月29日(木) クラウド連携のスタンダード【SkyOnDemand】ご紹介 & 体験セミナー
第1部 ご紹介セミナー
▼お申込みはこちらから
<http://www.terrasky.co.jp/event/2015/0129-001.php>

SkyOnDemandを実際に試してみたい！

- ・ 1月29日(木) クラウド連携のスタンダード【SkyOnDemand】ご紹介 & 体験セミナー
第2部 体験セミナー
▼お申込みはこちらから
<http://www.terrasky.co.jp/event/2015/0129-001.php>
- ・ トライアル(1ヶ月)お申込み
▼お申込みはこちらから
<https://www.terrasky.co.jp/contact/trial/index.php>

その他ご質問事項

下記までお気軽にご連絡ください！

TEL : 03-5255-3411

Email: product.sales@terrasky.co.jp

～8回：基本編～

日時：1月13日(火) 16:30～16:55

作ってみよう①
実践的！高度な連携処理の作成 - 前半 -



**ご清聴ありがとうございました
アンケートにご協力ください。**

